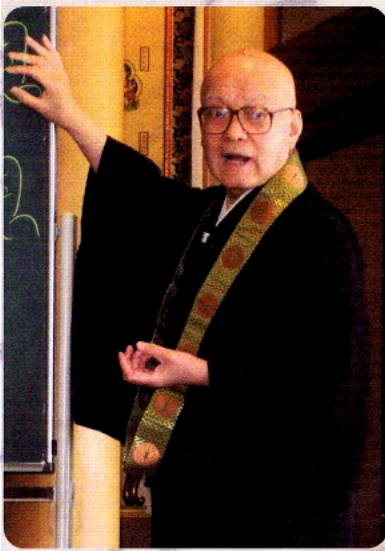


赤羽 宗坊

今日の時代状況を 外に眺めて嘆いていませんか



ご縁をいただいております 私の責任と姿勢

今日、真宗門徒にとって大切な報恩講が、だんだん見えなくなってきたとあります。そこで先にご縁をいただいておりますものは、一体そこで何を果たしていかなければならぬのか、一点問題提起させていただきます。

報恩講の「報恩」という言葉の「報」という文字には二つの意味があります。一つは「むくいる」ということ。つまり、恩に報いる、言い換えると知恩ということ。恩徳を知ることです。報いるとは、恩徳にお応えをすること。ですから、報恩ということの眼目は知恩にあります。知恩のないところには何もはじまりません、これが一つ。

「報いる」ということと「報らせる」ということ、これが一枚になつていくことが報恩の「報」なのです。そして恩徳の恩は言うまでもなく、親鸞聖人の教恩です。つまり、教えのご恩です。私たちが本当によく生き、よく死にきる事ができる人生のよりどころを明らかにしてくださる恩徳です。

ところが親鸞聖人の恩徳、この恩徳が生活の場実感されにくくなっているのが今日の状況ではないでしょうか。親鸞聖人の教えの恩徳というものを生活の中で感ずることがないかぎり、報恩講と申しましてもピンときません。当然です。お寺とご門徒さんの関わりは、死者儀礼にとどまってしまう、誰かが亡くなられたときにだけお寺と関わるという状況。

皆さん方は、報恩講をおして大切な事を感じてくださっておられても、子供さんやお孫さんには、それが切れてしまつておりませんか。「えらいことになったものやなあ」と、外に眺めて嘆いていらつしやるというのでしたら問題です。先にご縁をいただいております者の責任、姿勢が問われるという最も厳しい一点に起らないかぎり何もはじまらないのです。

感覚と発想の転換

仏法というのは感覚と発想です。はやい話が仏さまの教えがわかるということです。私の上に仏さまの智慧の感覚、発想が与えられるということでしょう。つまり、仏さまの感覚、発想に生きるあり方が報らされていく、それが仏法が生きていくということですね。仏法は必ず、私たちの上に感覚と発想となつて生きてくださる。教理や教義がわかつたというそんな話じゃありません。

「これからの寺はどうなつていきますか」と言うから、「これから栄えてゆきます」と言った。「どんな方法ですか」「それは、如来さまがいいようにせられる。寺の如来さまのお徳で寺が立っている。あなたの力や徳で立っているのではない。あなたが、如来さまのお徳を尊んでいけば、皆がやはり尊んでくれる。あなた自身が信心もせず、どうしていいかわからない心もせず、どうしていいかわからないやらねばならぬのなら、そんな如来さまを誰が信じるか。如来さまがいいようにせられるから、心配しないでお任せしておきなさい。あなたが側について、如来さまを信じて任せておつてこそ、皆の人が如来さまを信じる。側におるあなたが任せられぬような如来さまなら、誰が参りにきますか。詣りがなければ寺は滅びる。

赤羽別院報 第17号
発行日：2008年(平成20年)12月1日
発行所：真宗大谷派 赤羽別院 報恩寺
発行人：浅野 恰
愛知県稲沢市一色町赤羽上郷中14
Tel.Fax.(0563)72-2308
印刷：株式会社コーセー社

■講師紹介
池田勇諦氏(いけだ ゆうたい)
一九四〇年九月生まれ
東海同朋大学文学部仏教学科卒
大谷大学大学院博士課程修業(真宗学専攻)
元同朋大学学長、現在 同朋大学名誉教授
大谷大学(六ヶ所)学監
真宗大谷派講師
主な著書『改修文書』(東本願寺出版部)
『信心の再興』(樹心社)
『御文勅化録』(東本願寺出版部)
『真実證の回向成就』(東本願寺出版部) 他多数
三重県桑名市西恩寺住持

信心の再興

こちらの別院では、別院の再生ということ課題にしていらつしやることを承りまして、私は蓮如上人の課題を思い起こしていることとす。蓮如上人の生涯の課題は「真宗再興」ということでした。ここで真宗の再生、別院の再生というこがいわれておりますが、特に「これや」という妙案があるわけではないのです。蓮如上人に立ち返つて言えば、真宗再興は信心の再興です。親鸞聖人が明らかにしてくださつた信心を再興していく以外に浄土真宗の再興はない。これが蓮如上人のご態度でした。その心に学びますときに、私が以前から憶念しております暁鳥先生の次のお言葉に立ち返らされま

あなたの力やほからいで、どうにかなる寺ではないのだから、如来さまのお徳を信じるより他にはないのです」というた。寺をまもっていくということとはそれだけです。

暁鳥先生が伝えようとするお心は、信心一つということですね。

我々も、様々なことを経験して生きておりますが、それをどのような感覚と発想で経験をしているのか。あらためて仏法に遇わせていただくということの眼目が問われています。何が人間を真に主体化させる真実か、何が人間を眠らせる阿片か。どこまでも真実を知見していく智慧を聴聞するほかにありません。聖人の恩徳もそれをほかにしてはいけません。ならば、単に自分だけ聞いておればよい、喜んでおればよいという、報らせられません。報いれることが伝える、報らせることであれば、どこまでも共有していく歩みがひとえに願われています。

報恩講にお遇いして、この点をあらためて確認をさせていただくことが大切であります。

十月十六日 別院報恩講
御文法話から一部抜粋

赤羽御坊 新聞 ご懇志

- | | |
|-------|---------|
| 荒川照順 | 石原光久 |
| 稲垣祥治 | 杉浦 顕 |
| 杉浦 隆 | 杉本充生 |
| 鈴木きみ子 | 鈴木敬二 |
| 鈴木忠男 | 鈴木時寛 |
| 鈴木俊弘 | 鈴木正己 |
| 鈴木 守 | 中川宗司 |
| 中川 保 | 中川正直 |
| 妙尊寺 | 願正寺 |
| 法園寺 | 浄賢寺 |
| 無量寿寺 | 浄徳寺(細池) |
| 専興寺 | |

貴重なご懇志を
ありがとうございました

(敬称略)

カルチャーウォーク ■ ■ ■ 真宗の歴史をたずねて ■ ■ ■

吉良三英傑の一人吉良の仁吉の菩提寺である源徳寺を紹介します。当山は約五百年前、蓮如上人ご巡化の折、天台宗から真宗へ転派しました。第四世了伯の弟が遠州横須賀・松原城主であり、家康公より現在の寺地を拝領しました。第十三世了淳は本院院義と称し、真宗の碩学、三河で最初の講師(宗門内最高学位)となりました。今も、三門をくぐると左手に本院院の石碑が建っています。さて、仁吉についてですが、幕末の頃迄、お寺や神社では相撲の興行がありました。当時成人男性の身長は五尺(凡そ150センチ)ほどでしたが、身長六尺(凡そ180センチ)の大男であった仁吉は、草相撲の大関(四股名吉良錦)であり、勝つてはいけない八百長試合に勝つてしまいました。それが原因で喧嘩となり、西尾市寺津の間ノ助親分の仲介を経て、次郎長親分に三年間厄介になり、最後は兄弟分になりました。



▲源徳寺 吉良仁吉の墓

また、お寺は寺社奉行管轄であったために、今で云う警察や役人は手が出せませんでした。そこに目をつけた吉良の入道が、仁吉を清水から帰してもらい、吉良の地で親分として賭場を護つてくれと頼みました。ここに吉良一家が誕生し、西三河一帯の縄張りを持つことになりました。しかし三年後一宿一飯の義理により、荒神山の決戦に向かうことになり、清水の大政小政をはじめ、十八人衆を引き連れて戦いました。その結果、仁吉方の勝利となりましたが、仁吉は深手を負い、三河の地に戻り亡くなりました。その後、仁吉の一周忌に次郎長と吉良の町民によつて当時最大級のお墓が建立され、「法名釈尊香」と刻まれました。

場所／名鉄 西尾浦郡線
上横須賀駅から西へ徒歩5分



◆ 仏事 Q & A ◆

Q 鈴(りん)の撥(ぼち・通称リン棒)を取める位置はどこですか？

A お勤めをしていない時は①の写真のように鈴の中に収めます。よく、②の写真のようにされていることがあります。撥は鈴台の中には置けません。お勤めをしている時は、撥を③のように鈴台の上、右側に置きます。法事の席に招かれて本尊におまいりする時、鈴を打つてから合掌をしています。鈴は打ちません。鈴は、お経や正信偈など、お勤めをする時に用います。時々マッチの燃え残り等が、鈴の中に入っていることがあります。それは、鈴の間違った使い方です。気を付けたいものです。

別院行事のご案内

除夜の鐘

12月31日(水) 午後11時45分

修正会

1月1日(木) 午前7時

双全講

1月14日(水)・15日(木)
午後1時30分

真宗講座

「報恩講和讃に聞く」
講師 池田勇諦師
(桑名市西恩寺 前住職)

2月6日(金) 第1回目
3月6日(金) 第2回目
4月23日(木) 第3回目
午後2時～午後4時まで

赤羽別院長朝法話担当一覧

2009年
1月13日(火) 第11組 正念寺 平野 眞師
28日(水) 無量寿寺 大河内照顕師
2月13日(金) 第12組 本誓寺 足利 憲師
28日(土) 本誓寺 足利 憲師
3月13日(金) 第13組 慶徳寺 法輪 哲師
28日(土) 教養寺 間島 亨師
赤羽別院の晨朝法話、1月から3月までの担当者は、担当です。

編集室

カラー版の新聞として第二回目の発行となりました。また、編集委員に第十組水鏡寺門徒の石川鴻英さんに加わっていただきご協力を頂くことになりました。編集委員一同、常に読みやすさと少しの遊び感覚をもつて紙面作りに臨んでおります。応援をよろしくお願ひします。
次号は、来春三月頃の発行を予定しております。

Yes! 高須クリニック
美容外科・形成外科・皮フ科・泌尿器科・歯科
院長 高須克弥

●年中無休 ●予約制

赤坂 地下鉄千代田線 赤坂駅5番A出口すぐ
〒107-0052 東京都港区赤坂2-14-27
国際新赤坂ビル東館12F
TEL 03-3587-2061
歯科直通 03-3583-9244

電話受付 9:30~22:00 **0120-5587-15**
歯科専用 10:00~19:00 **0120-4180-86**

まごころ込めておつくりします

総本家五代目
吉崎礼二郎
仏壇 仏具
製造販売
洗い修理

千四四一〇四七
愛知県幡豆郡色町大字赤羽(別院前)
電話 〇五六三三七七八五七七番

吉崎礼二郎 仏壇 仏具 製造販売 洗い修理